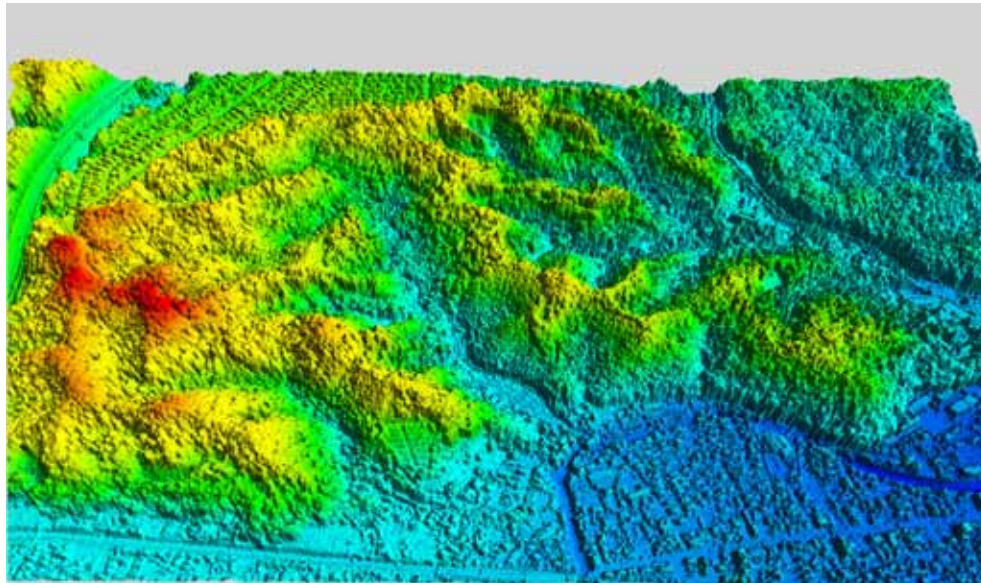
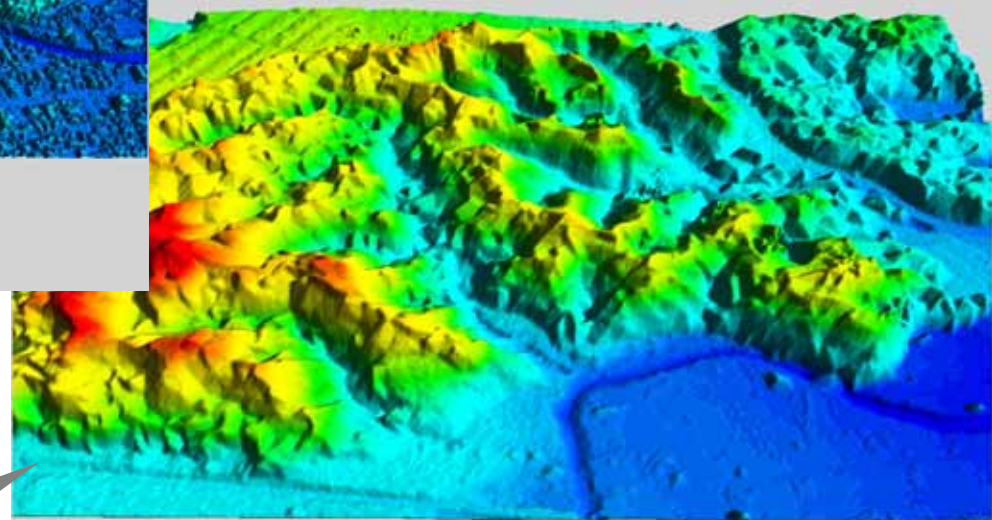


航空レーザスキャナ計測データの例



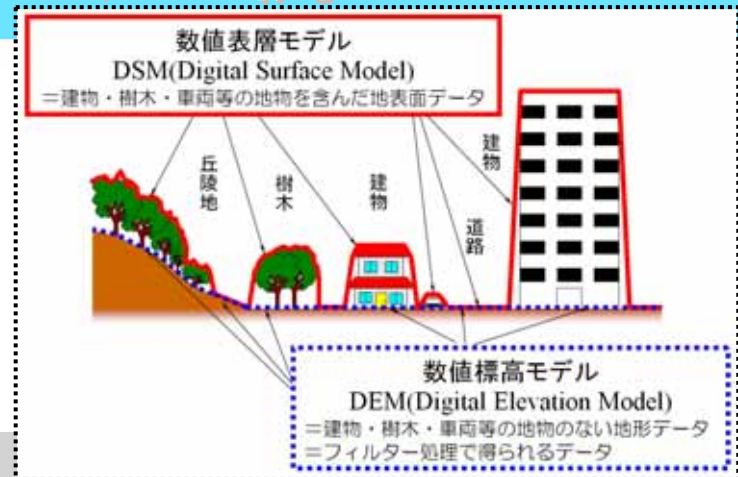
DSM

林冠の高さがわかる



DEM

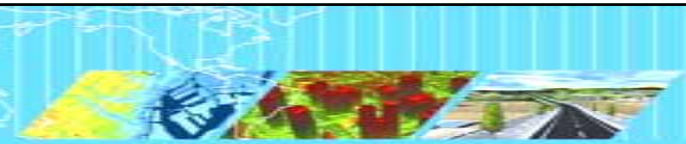
地盤の高さがわかる





測量事業者からみた森林の空間 情報整備に関する課題と提案

森林域の空間情報の現状



情報

森林計画図(基本図)

目的:戦後の施業案編成のための図面整備
用途:森林の維持管理基礎資料

航空写真

目的:森林資源状況の把握,森林基本図作成
用途:地域森林計画策定時の皆伐等状況確認

森林GIS

目的:森林行政の効率化
用途:森林情報の一元管理,情報共有

現状

- ◆縮尺1/5,000,等高線間隔10m
- ◆約30年前に整備(その後は修正のみ)
- ◆アナログ航空写真(白黒)
国有林については,今年度からカラーデジタル撮影
民有林の一部は,デジタル撮影導入済み
- ◆5年周期で森林部撮影
- ◆ほぼ全都道府県で導入済み
- ◆既存の森林計画図,森林簿,
航空写真等を電子化したもの

森林再生のためにやるべきこと

やるべきこと

林地境界の確定

理由: 林業の効率化のために, まず
初めにやるべきこと

路網整備

理由: 高性能林業機械の導入
林業の生産性向上
産業としての林業再生

必要延長約26万km

現状・課題

◆信頼できる林地のデータがない

- ✦公図の精度が低い
- ✦林地では実測に手間がかかる

◆時間がかかる

- ✦土地所有者の高齢化, 不在村化
- ✦場所特定が曖昧で合意を得にくい

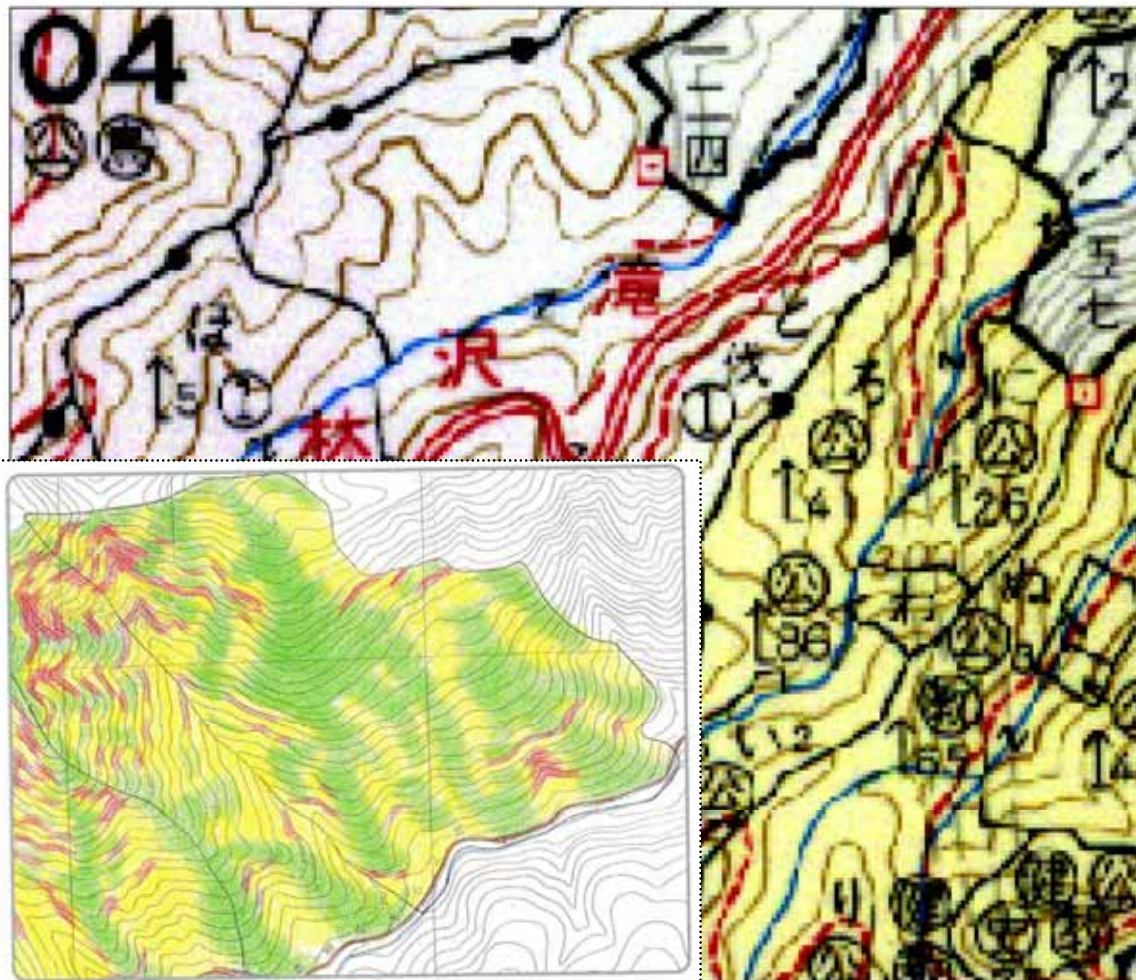
➡ 林地の地籍調査の進捗率は, 約40%

◆信頼できる林地の地形データがない

- ✦森林基本図は精度が不足
- ✦図上でルートが絞り込めない
- ✦新たな実測は高価

➡ 整備が思うように進まない

林地境界確定，路網整備に対する 既存情報の限界



森林基本図を用いた路網計画策定

- ◆30年前の図化技術のため、精度が低いとの意見
- ◆現実林分と森林計画図，森林簿が合わない



効果的な整備地区がどこか，戦略を練ることが難しい

既存の情報(森林基本図，林相，林班，既設道路)の限界

航空写真測量の限界